優秀賞

保険の一手が自分を救う

茨城県　土浦市立土浦第四中学校　三学年　岡田　陽菜

私の伯父は、数年前にガンになった。手術のために数日間入院し、しばらくの間は在宅勤務をしていた。そんな伯父は、生命保険に入っていたので、経済的にいくらか助けられたらしい。母は、伯父が生命保険に入っていたのは、他の人に勧められたからだけではないかもしれない、と言った。

「あなたの祖母、つまりお母さんと伯父さんの母は、私が子どものときに亡くなったのよ。そのとき、色々と困ったの。」

母によると私の祖母は、母が中学一年生のときに病気で亡くなったそうだ。数年間入院治療し、多くの費用がかかったという。また、家族で農業をしていたため、働き手が一人減り、収入も大きく減った。さらに、家事をする人がいなくなり、母は大変な苦労をしたらしい。

「家事や農作業の手伝いをしていたから、自由に使える時間はあまりなかったんだ。だから、家の近くの学校に進んだんだよ。」

今年、私は受験生だ。だからこそ、もし何かの事情で学校の選択肢が狭まるとしたら、とても辛いだろうと感じる。例えば、経済的な理由で私の行きたい高校に行けないということになったら、悲しくなると思った。もしかしたら、実際に何らかの事情で行きたい学校に行けなくなる人たちもいるだろう。それならば、何かが起こっても、それをカバーしてくれるものがあればいいのにと思った。そのとき、母がつぶやく。

「あのとき、生命保険に入っていれば医療費の負担が減って、家計の心配も少なくなっただろうね。そしたら、私はあんまり農作業を手伝う必要はなかったのに。」

それを聞き、私は思う。もし祖母が生命保険に入っていたら、母は家計の心配をすることなく、勉強に専念でき、高校の選択肢も増えて、大きく違う人生になったのではないか、と。母の話で生命保険の重要性が良く分かった気がする。

母は、話を続けた。

「それでね、伯父さんもお母さんと同じく農作業の手伝いをしてたの。そして、公立の高校に進み、奨学金をもらって大学に行ったんだよ。だから、伯父さんは病気になったときにお金で苦労しないために生命保険に入っているんじゃないかな。」

私はそれを聞いて、伯父は過去の経験を活かしているのだなと思った。伯父

にとって、自分の母親が亡くなったことはとても悲しいことだっただろう。しかし、それを忘れるのではなく、出来事と向き合い自分の人生に反映させている。そして、実際に生命保険に加入して役に立った。私なら、そんな辛い経験は忘れようとするだろう。でも伯父を見ていると、それでは駄目だと気付いた。

また、母も生命保険に入っている。どんな保険なのか聞くと、「父と母、それぞれの収入や役割を考え、最適な保険を選んだのよ。」と言った。それを聞き、なるほどと思う。母も伯父も、良く考えて保険に入っていた。自分の病気や死の可能性と向き合い、未来を見据えて自分の周りの人々のことも考えている。

良く考えて保険に入れば、将来に起きる不測の事態のダメージを最小限にできると思う。これから私の歩む人生の途中で、様々な出来事を乗り越えていかなければならない。そのためにあらかじめ知識や経験を蓄積し、計画的に人生のプランを立てていく必要がある。私も母や伯父のように、病気などになったときのため保険に入ろうと思う。そのためにも祖母や祖父、両親のかかった病気、かかりやすそうな病気を知り、自分のリスクに最適な保険を選択する。それが、これからの人生を楽しく歩んでいくための方法だと思う。